

花のある暮らし 「かごしまの花」で暮らしに彩りを

鹿児島県は、切り花の作付面積が全国4位の花き産地で、また、過去には全国1位の切り花消費県でもありました。しかし、最近では花の消費が減少している状況です。

そこで、「かごしまの花」を知っていただき、毎日の生活でも使ってもらおうと、県と県内の花き業界が一体となって「かごしまの花」に関心を持ってもらうためのさまざまな取り組みを行っています。

花きの生産の現状

本県は温暖な気候条件のもと、南薩、大隅、奄美地域を中心に、キク、ユリ、グラジオラスなどの切り花が生産されています。

平成24年産では、グラジオラス、ソリダゴ、レザーリーフファンが全国1位の生産量で、切り花の作付面積は734ha（全国4位）、産出額は92億円（全国6位）と、全国でも有数の花きの産地です。

花きの消費動向

しかし、切り花の消費動向は本県でも、また、全国的に見ても長期的に減少傾向にあり、特に若年層の購入金額が低くなっています。

切り花を購入しない理由としては、「花を買う習慣がない」「花の手入れが大変、わからない」など、花への関心の低下や花に関する情報が不足しているようです。そこで県では、切り花を身近に感じてもらうための取り組みを始めています。



《レザーリーフファンを使った
フラワーアレンジメント》



《スプレীগク》



《グラジオラス》



《ソリダゴ》



《テッポウユリ》

「かごしまの花」にふれてみよう

「かごしまの花」を知っていただくため、さまざまな活動をしています。
気軽に見て、触れて、感じて、「かごしまの花」のファンになりませんか？

《新たな花贈りPR》



11月22日の「いい夫婦の日」に、日頃の感謝の気持ちを込めパートナーに花を贈るキャンペーンを広くPRするため、平成25年度から県産花束をプレゼントしています。

また、バレンタインデーに男性から女性に花を贈る「フラワーバレンタイン」も提唱しています。

新しい考え方が消費者に浸透するには時間が必要ですが、新たな花贈り文化としての定着を目指しています。



《花育(※)活動》

県では、かごしまの花への関心を高め、花に接する機会を提供するため、平成8年度から「花とのふれあい事業」として、県内の小学生を対象に、フラワーアレンジメント教室を開催し、平成25年度までに延べ645校、約2万1,000人に実施しました。

平成26年度からは、特に若い世代に花への関心を持ってもらおうと中学生や高校生、短大生にも花育体験教室を開催しています。

(※) 花や緑に親しみ、育てる機会を通して、やさしさや美しさを感じる気持ちを育むこと

《「かごしまの花」PR》

かごしまの花を消費者にPRし、身近に感じてもらうと、鹿児島中央駅において11月から3月まで、各1週間装飾展示を行っています。

また、県産の花の購入のきっかけになることを目的に、11月から2月までの期間中4回、キャンペーンに参加している県内10店舗の産地表示協力店(※)で県産花きを購入した消費者に花瓶などのプレゼントキャンペーンを始めています。

(※) 県産の花を取り扱い、産地表示をして販売する店



《フラワーフェスティンかごしまの開催》



花きの生産・流通・販売に携わる団体が一体となり、毎年2月に「フラワーフェスティンかごしま」を開催しています。

県産花きの展示や花き関係団体の趣向を凝らした装飾、ガーデニング体験教室、生け花のワークショップなどさまざまな催しを通して、暮らしの中での花の活用方法を提案し、多くの県民の方に花に親しんでもらおうと取り組んでいます。

今年は、「花のある暮らし 花飾NowDo!」をテーマに、2月7日(土)～8日(日)、かごしま県民交流センターで多彩な花のイベントが催されます。

《「かごしま花大使」講演会の開催》



かごしま花大使で華道家の假屋崎省吾氏による、フラワーデモンストレーションを交えた講演会を2月14日(土)にフラワーパークかごしまで開催します。

假屋崎氏の県産の花きを使った実演とお話により、かごしまの花の魅力をもっと味わえるイベントになると考えています。

花には「心を癒やす」「心を伝える」などのさまざまな魅力があります。また、花育活動には、植物・自然についての知識や関心が増すだけでなく、やさしさや思いやりの気持ちを持つようになるなどの効果があります。

県では、今後も、美しい「かごしまの花」の提供に取り組み、県民の皆さんに花による心の豊かさや彩りをお届けします。

問い合わせ先

県庁農産園芸課

☎099(286)3184